



Vol.39

夏野ゆく 牡鹿の角

空の青と木々の緑にまぶしさを感
じる季節になると、なんとなく気持
ちが弾むような気がします。そんな
季節には、人の心だけでなく野原の
草花も勢いを増し、のびのびと生い
茂るかのようです。動物たちの動き
も活発になります。

この歌ではまず、夏の草が茂る野
原を歩む牡鹿が描かれています。牡
鹿に生える角は、毎年生え替わるこ
とで知られており、夏の角は生え替
わったばかりでも短いのが特徴
です。旧暦でいう「夏」は、現代の季
節感からいうと春から初夏にかけて

なつの
夏野ゆく牡鹿の角の束の間も
妹が心を忘れて思へや

柿本人麻呂

巻四

五〇二番歌

【訳】夏の野を行く牡鹿の角のように、ほんのわずかの間も
妻の心を忘れることがあるのか。

の時期に相当します。旧暦五月五日
(現在の暦で六月頃)には、鹿の若角
を取る薬狩も行われました。

その夏の牡鹿の角をたとえに使っ
て、そのように短い時間も愛しい女
性の気持ちを忘れることはない、と
相手への恋心を表現しています。

「束の間」は、ごく短い時間という
意味です。「束」とは古代の長さの単
位のひとつで、一束は手でつかんだほ
どの長さをいい、片手の人さし指から
小指までの指四本分の幅を指します。

鹿を詠むのは秋の歌が多く、夏の
歌は珍しい例です。作者である柿本
人麻呂は、後世に歌の聖とも称され
た有名な歌人です。この歌の主旨は、
相手の気持ちを片時も忘れること
はない、ということだけなのですが、
生え替わったばかりの鹿の角の短さ
をたとえとして詠み、それを導き出

す夏の野を行く鹿という描写を加
えたことで、現代の私たちの想像力
をもかき立ててくれます。

(本文 万葉文化館 井上さやか)



時 7/16~9/24の毎日曜・祝日、8/12
9時30分~(15分程度)
問 (一財)奈良の鹿愛護会 ☎0742-22-2388
所 春日大社内飛火野 naradeer.com
JR・近鉄奈良駅から奈良交通市内循環バス
「春日大社表参道」下車すぐ

無料



写真提供: (公社)奈良市観光協会

なつの鹿寄せ

